

平成 28 年 6 月 20 日

「第 4 回ヒートアイランド対策国際会議」で発表した研究論文が Best Paper Award を受賞しました

平成 28 年 5 月 29 日から 6 月 1 日にシンガポールで開催された「第 4 回ヒートアイランド対策国際会議」において、都市を 5m メッシュに分割して気温や体感温度を評価する研究論文を発表し、Best Paper Award を受賞しました。

【受賞概要】

会議名称：第 4 回ヒートアイランド対策国際会議

場所：シンガポール国立大学(シンガポール)

受賞日：平成28年6月1日

賞名：Best Paper Award

業績名:Simulation Software for Evaluating Thermal Environment Measures in Cities with Simple Operation
(簡便な操作による熱環境対策評価シミュレーションソフトウェア)

受賞者：国土技術政策総合研究所 住宅研究部住宅情報システム研究官 足永靖信

【会議の概要】

「第 4 回ヒートアイランド対策国際会議」は、夏季の暑熱・空気環境を緩和するための科学、工学、施策を協議するため、2～4 年に 1 度開催され、ヒートアイランド対策としては最も権威がある国際会議です。今回は、5 月 29 日から 6 月 1 日にシンガポールで開催され、26 の参加国から 205 名の参加者と 215 の論文が寄せられました。



写真1 賞状



写真2 副賞

【研究の内容】

本論文は、500m 四方の都市を 5m メッシュで分割し、建物や土地利用の配置や表面の仕上げなどをパソコン入力することにより、気温や体感温度を評価するソフトウェアの効果検証を行ったものです。なお、このソフトウェアは、国総研が国交省都市局とともに開発したものであり、平成26年8月28日より国総研のホームページで「都市の熱環境対策評価ツール」として無償公開しています(図1)。その大きな特徴は、表計算ソフト(エクセル)の上で作動し、簡便な操作でデータ入力や計算を実施することができる点にあり、CFD on EXCEL と称されています。既にいくつかの自治体による活用事例があり、低炭素まちづくりの実践に役立てられています。本受賞を契機に、近年、急速な都市化、暑熱化が進行しているアジア地域におけるヒートアイランド対策においても今後活用を図り、国際貢献したいと考えています。

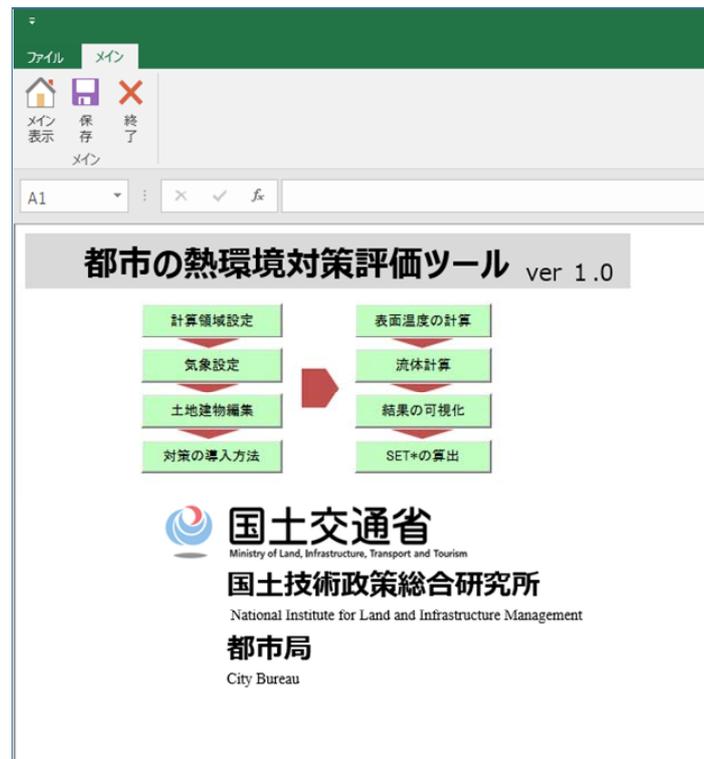


図1 都市の熱環境対策評価ツールの操作画面